

第29回

うつのみやこども賞だより

平成24年度 第3回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『糸子の体重計』

いとうみく／作 佐藤真紀子／絵（童心社）



～読んだ本の感想よ～

- 一つのエピソードがいろいろな人の気持ちでかいてあっておもしろかったし、糸子もダイエットに成功して毎朝ランニングするようになったのでよかった。とっても現実みがあったておもしろかったです。
- 糸子がやせるように苦労をしてて、読んでいてときどきした。
- 糸子と高峯のダイエットがきっかけで、糸子、良子、理子、まみ、径介の仲が良くなっていくのがいいなと思った。
- 読んでいるうちに親近感がわきました。糸子のような人がクラスメートにいたら、おもしろいだろうなと思いました。この本は糸子に関係する様々な人々の視点で書いているの

で、それぞれの思いや相関がよく分かり、この本に引きこまれました。

- 友情があってとても心があたたまる本でした。ほんとうに糸子はたべることが好きなんだなあと思いました。

『天空町のクロネ-知りたがりの死神見習い-』

石川宏千花／作（講談社）

- もし、私が死神だったらなどと、いろんなそうそうやばめんがわきでてきて、ときどきしました。
- クロネという人物がすごくきょうみぶかくて、さいしょからさいごまでたのしめる本でした。
- クロネが観察対象にこうやくんを見つけて、病気りょう養中のおじょうさまというせっていでこうやくんを観察していた事が心に残った。「こうやくんや人間のこともっと知りたいし」という言葉が印象にのこりました。
- 最後にクロネが涙をながしたのがすごくいいと思いました。

『お菓子の本の旅』 小手鞠るい／著（講談社）

- 「お菓子の本」を通して人と人のつながりが生まれているところに感動した。「お菓子の本」があったからこそハルカは外国人と仲良くなれたし、ハルカとジュンのつながりもできたので良かった。
- とてもおもしろいとおもった。ところどころにおかしのレシピがのっていてよかった。
- お菓子の本が旅していく様子がよかった。お菓子の本で、人が幸せになったところが印象に残った。
- いろいろなレシピがのっているところがおもしろいと思った。

『花実の咲くまで』 堀口順子／作（小峰書店）

- 新太郎とじいちゃんの2人だけの会話は2人だけのひみつのようにワクワクした。
- 新太郎が男の身投げを必死でとめたのは、本当に文七みたいな出来事だったのでびっくりしました。新太郎（伊達家花咲）が高座にあがったらぜひ落語を聴きに行きたいです。
- 天国からおじいちゃんがきて、最後に新太郎に落語を教えるところが感どうしたし、一番印象的だとおもいました。
- 新太郎が迷いながらも自分の道を進んでいくところに感動しました。